

第 45 回九州地区人権・同和教育 夏期講座（8 月 20 日、21 日）全体会アンケート

地元報告について

- ・「色覚異常」の子たちが、どのように色がみえているのか。どのような困りがあるのかわかった。
- ・楽しみにきた。「色覚にであう本」をどのように活用するのか悩み、職員研修や人権 P T A での取り組みをしたものの、テキストを丸ごと配って使う勇気はなかった。それが自分の差別性にあったことを報告で気づかされた。日々、自分の差別性との闘いと言う言葉が印象に残った。
- ・教職員研修は 2 年ほど前からしているが、指導案を作ってではなく、「であう本」を読むという子どもたちにも入りやすい方法があるのだと思った。しかし、まるごと全部を使うところに抵抗があった私は、配慮のせいだったが、自分の差別性だったのかと反省した。
- ・色覚に関わって職業選択は昔よりも開かれつつあるが、まわりの理解はつねに必要なし、啓発していかなければならないと思う。
- ・身近なのに気づけない色覚問題。こんなふうに迫っているんだと、思い新たに子どもに接していこうと思った。
- ・城先生の生きざまそのものが子どもたちの学習に反映しており、その経験のないものは当事者に会ったり、このような講座や模擬授業などあらゆる方法で自分に疑問を投げかけたり、する必要があると思う。
- ・子どもに色覚特性があるとわかった時や保護者から相談があった時、職業選択で夢をあきらめたり、いじめられたりすることはおかしいことであり、特性があっても当たり前だという思いを伝えたいと思った。
- ・教え子の進学相談で工業系への進学を諦めさせた経験があり、ゆっくり、展示をみさせてもらい、報告の内容が人権として取り上げて考えていかねばならないと思った。
- ・真摯に取り組んでいる養護教諭の先生を知ることができ、心強く思った。
- ・2000 年辺りに色覚に困りをかかえた生徒と出会っていながら、2016 年まで具体的な支援をしてこなかった学校現場の恐ろしさを感じた。発表自体はとても素晴らしい取り組みだったので、なおさら、それ以前にも何らかの支援をしてほしかった。
- ・城さんが自分の立場で地道に実践されていることに勇気ももらった。しっかり学び直して、多様性を受け入れられる社会に近づけていきたい。
- ・城先生の生き立ちを含めたお話にとっても感銘を受けた。色の見え方で困っている子がいることや、色の見え方は多様な特性の 1 つだと知った。まわりの人の中で、色覚に関わらず、少数派で苦しむ人に気づけるようになりたいと感じた。
- ・もしかしたら、少数色覚によって、不都合が生じる職業というものもあるかもしれないが、色覚の違いは人が生きていく上において、健康上の支障がないのであれば、五感も人によって違うものなので、多様性を認めあえたらと思う。
- ・幼少期のお話から涙して聞かせてもらった。少数色覚について考えたことがなかったので勉強になった。
- ・生徒の見え方をこちらが決めつけてしまえば、その子の将来をつぶしてしまうことになるので、そのような生徒がいるという認識でいようと思った。
- ・自らの生き方と重ねての報告、印象に残りました。
- ・色覚の展示を見て、どんな感じで見えるのかよくわかった。
- ・色覚を必要とする場面を社会でどう乗り越えていくか大切。
- ・「多くの人と違うこと」を正しく知り、少数にも分かり易いことが全てに優しいと、まさに思った。
- ・自身の話まで聞かせていただきありがたかった。子どもたちもよくわかっていない子が多いか、言えない子がいると思う。そんな子に寄り添える、理解できる教師でありたい。
- ・色覚検査がなくなれば、問題が無くなるわけではないことがわかった。
- ・少数色覚について自分の知識や理解がいかに不十分だったかを痛感した。ロビーの展示は具体的でとても分かりやすかった。
- ・展示も興味深く拝見した。
- ・色覚を知る展の展示パネルがよかった。
- ・子どもの様子がわからなかった。